

エフエム山陰 SDGs 特別番組
1000 年先の未来をあなたと考える（第4回）
放送日 2025 年 3 月 16 日（土曜日）9 時から 30 分

出演(ゲスト)・株式会社赤碕オート 代表取締役 井木桂太さん



進行/パーソナリティ・FM 山陰 高田リオン

高田さん

おはようございますエフエム山陰パーソナリティの高田リオンです。
近年よく耳にする「SDGs」。リスナーの皆さんはどれくらい「SDGs」について理解されているでしょうか。
「SDGs」とは、持続可能な開発目標「サステナブルディベロップメントゴールズ」の頭文字をとった略称です。
2015 年 9 月の国連サミットで採択され、国連加盟 193 カ国が、2016 年から 2030 年の 15 年間で達成するために掲げた目標です。
ジェンダー平等や、働きがい、経済成長など身近な問題もある中で、世界に目を向けると貧困、紛争、気候変動、感染症、人類はこれまでになかったような数多くの課題に直面しています。
このままでは「人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなる」と心配されています。
自分たちが生きている時代だけ幸せであればいいのだろうか。
自分たちの子供たち、孫たち、そのもっと先の世代に何を残し、何を伝えることができるのでしょうか。
この番組は「SDGs17」などの大きな目標を、一つ一つ勉強して行く内容ではなく、山陰両県で既に「SDGs」に取り組んでいる企業や、キーパーソン、または「SDGs」につながっていくような未来へのアクションを起こしているプロジェクトをご紹介します。
「エフエム山陰 SDGs 特別番組 1000 年先の未来をあなたと考える」最後までお付き合いください。
「エフエム山陰 SDGs 特別番組 1000 年先の未来をあなたと考える」4 回目となる今回はまさに自然環境に直結している自動車をピックアップします。
地球環境の問題だけでなく生活必需品であり、山陰では生活の要といってもいい車の話を今回は、鳥取 SDGs 企業認証制度の審査をクリアした鳥取県東伯郡琴浦町赤碕にあります株式会社赤碕オート代表取締役井木桂太さん詳しく伺っていきます。

高田さん

思いつくだけでも排気ガスや高齢化社会に移動問題、あとは自動運転など次世代での課題や期待する点もたくさん浮かんでくるのがこの車業界ですけれども、今日はその現状をお聞きします。最後までお付き合いください。

「SDGs 特別番組 1000 年先の未来をあなたと考える」今回お話を伺うのは鳥取県東伯郡琴浦町赤碕にあります、株式会社赤碕オート代表取締役井木桂太さんです。よろしくお願いします。

早速ですけれども、人と車の笑顔を作る赤碕オートについてどんな会社なのかご説明いただけますか。



株式会社 赤碕オート

井木さん

はい。株式会社赤碕オートは鳥取県琴浦町にある自動車のトータルサポートを行う会社で設立は1979年になります。主な業務内容は新車中古車、販売リース、車の車検や整備、保険の取り扱いなどを通じて安全安心快適なカーライフをお客様にご提供させていただいている地域密着企業です。また業務を通じて人も車も笑顔になれる素敵なカーライフを目指しています。



代表取締役 井木桂太さん

高田さん

お車のさまざまな悩みを解決しているということですね。

井木さん

はい。

高田さん

この放送が3月中旬なんですけど、この時期にスノータイヤからノーマルタイヤに皆さん替える時期なんじゃないかなと思うんですけど、忙しくなってくるんじゃないですか。

井木さん

これから春の暖かい時期に迎えるにつれてタイヤ交換が少しずつ増えてきますので、雪など天気を見てタイヤ交換していただけたらと思います。

高田さん

それは本当に皆さんのタイミングですよ。もう降らないかなと思ったら急に降ることもありますもんね。

井木さん

最近は天気が突然変わってしまいますので適切な交換をよろしく願いします。

高田さん

今回、車のプロフェッショナルであります赤碕オートがなぜ車の番組ではなくこのSDGsの番組に出ているんだろうと思ってるリスナーさんもいるかもしれませんのでまず私からご説明致します。

実は鳥取県では世界中で検討が進められているSDGs経営に求められるさまざまな取り組み基準の中から、地域の企業にとって特に重要なものを抽出、再構成し、令和4年4月に都道府県では全国初となるSDGsの企業認証制度、その名前「鳥取SDGs企業認証制度」を創設しました。

令和4年7月に第1回認証企業27者が決定したんですけれども赤碕オートさんはこの基準を見事クリアしまして認定された企業なんですよ。この認証までの経緯を教えてください。

井木さん

学生時代にビジネスと社会課題の解決を両立する分野に関心を持っていました。卒業後自動車業界に就職しまして経験を積んだのち、家業の赤碕オートに入社致しました。

そんな中、長年のお客様と雑談をしていた時に「大阪の娘から免許返せと言われてるけど、この車がなかったら何もできん」とお客様から声をいただいたんです。安全が優先される部分なんですけれども、山間地での移動の自由とかそういったものがなくなるのは大きな問題なので、その一言が心に引っかかったんです。それが最初の認証申請する理由となります。

高田さん

私もそうなんですけど、自分の仕事のことだけで精一杯の企業さんがたくさんあると思うんですけども、そんな中で高齢者ドライバーの方の免許返納と言う地域課題に向き合おうってなかなか思うことできないと考えるんですけど、そこに向き合おうっていう、それ井木さん昔からそういう性格なんですか。

井木さん

そうですね。困っていらっしゃる方が身近で長くお付き合いをさせていただいているお客様でしたので、「自動車を手放したら困ってしまう」というような声をなんとかできないものかと考えていました。

いろいろ調べてみると鳥取県の高齢化率っていうのが、令和3年の時点のデータで32.7%の方が高齢化を迎えておられ、県内の人数で約17万人が高齢者となります。あと6年ほどで後期高齢者という段階を迎えられますので免許返納後にどうするんだ？というような問題が色々あります。

完全な自動運転車が発売されれば良いのですが、そうした自動運転というのが今現在も発売がありませんので、この問題を何とかしていかなければいけないなと思っています。

高田さん

そうなんですね。実際にそういった数字がもう出てるんですね。
これ本当に身近な問題だと思うんですけども、ではそこからの取り組みっていうのももう実践されているわけですね。

井木さん

令和4年だったと思うんですけども、琴浦町が中央大学さん、株式会社未来シェアさんという会社と連携し、「共助交通の実証実験を行ないます。」という案内があったんです。その実験の「ドライバー募集中」というチラシを見て「あっ、これは！」と思ってすぐ連絡をしたんです。

高田さん

うまくすぐ連携は取れたんですか。

井木さん

はい。早速ドライバーにいただきまして、そのドライバーを通じてこの実験の中に入れていただくことになりました。その中で自動車の短期的なレンタルとかメンテナンス、自動車の保険、そうした部分もすべて含めてオールインワンのサービスっていうのを弊社から提供させていただいたという次第です。

高田さん

なるほど実際に手ごたえはあったんですか。

井木さん

はい。実験は無事に終わりました、いろんな方が「助かったよ。」という声をいただきましたので、この経験を得たことでチャレンジャーとしてこの地域の移動の問題に関して課題解決が出来て、お役に立てるという自信になりました。

高田さん

これからこの認証制度を申請する企業さんも増えていくのかなと思うんですけど申請するときの手続きとかも大変だったんじゃないですか。

井木さん

そうですね。申請に関する手続きは鳥取県さんが申請様式っていうのを作っておられて、その内容は向こう3年間どういった計画でやっていくかという部分を作成していったんですけれども、特に弊社は持続可能なまちづくりという部分に力を入れてそうした部分に先ほどお話ししたような内容を盛り込んで申請内容を作成しました。

高田さん

申請が通った時のお気持ちとか聞かせてもらえませんか。

井木さん

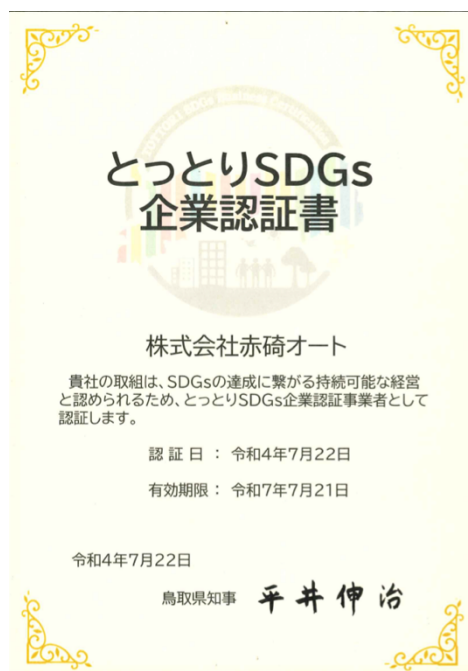
やっぱり地域の困ったっていう部分を解決するための取り組みに不安がありました。鳥取県さんに認めていただけるか否かっていうところがどうなのかな？と、自分たちだけのその視点っていう部分で考えてしまうと隔たりが吉なんですけれども、第三者という鳥取県さんの立場から判断いただいて、お墨付きをいただけたということは本当にありがたいなと思ってます。

高田さん

そうですね。それは本当にお墨付き、自信を持ってこれからSDGs問題に取り組んでいますもんね。実際にそこから赤碕オートさんが取り組んだ内容をもっと詳しくお聞きしていこうと思うんですけれども、その実績であったりとか、あとは周りからのリアクションなどもどんなものがあつたか教えてもらえませんか。

井木さん

はい。2点紹介させていただけたらと思います。まず1点目は住み続けられるまちづくりに関連する取り組みとしまして短期間でのリース、いわゆる「短期リース」と言うんですけれどもそうした取り組みを行ないました。これは実験を行った団体様にも提供したような自動車の貸出、メンテナンス、保険、ロードサービスをまとめて必要な時に必要なだけ自動車を使用するというサービスを作りました。



認証ロゴマーク

高田さん

なるほど常に車を所有すると経費もかかりますし、短期リースだとみんなで使うこともできてこれも環境にも優しいってことですね。そして他の取り組みもやられるんですよね。

井木さん

はい。取り組みの2点目なんですけれどもSDGs13番の気候変動に具体的な対策をどういうものに関連する取り組みをするかということとして、自分でとことん手洗いができるセルフ手洗い洗車場を運営しております。この目的は何かと言いますと、マイカーに愛着を持っていただくための取り組みでして、洗車機で洗車するっていうのが一般的なんですけど、手洗いで自分で洗えるという場所を敷地内に作って、洗車を通じてオーナーさんが車により愛着を持ってもらって車を大切にしているっていうような体験をしていただくことで、安全だったりとか、車を大事にさせていただいて長く使っていただける気持ちを育むという取り組みです。

高田さん

確かにそうですね。愛車を大事にしていけば本当に愛着湧いて長くこの車に乗って行こうって思いますもんね。このセルフ手洗い洗車場が赤碕オートさんの敷地内にもあるってことですね。じゃあ結構いろんな方が利用されますね。

井木さん

遠方の方も来られるイベントでのご利用もあります。「オフ会」というような何かの形で鳥取に集まられたりすることがあるんですけれども、県外からの方が鳥取でのイベントの前に汚れたからちょっと洗いたいよ」とか、そういったご利用もありまして、「とことん綺麗に出来てありがたい」と言っているみたいです。

高田さん

大好評なんですね。

井木さん

おかげさまで。

高田さん

この取り組みについて聞いていきたいんですけれども、まずはここで一曲お届けしたいと思います。この番組ではゲストの方に音楽もセレクトしてもらっているんです。ご紹介いただけますか。

井木さん

はい。それでは発表から20年が過ぎても今も色あせない曲でして、私も色あせなく頑張りたいと思います。くるりで「ばらの花」



高田さん

お届けした曲は、くるりで「ばらの花」でした。春が近づいているこの時期に、車の窓を開けながらこの曲聴いてドライブしたら最高ですね。

井木さん

そうですね。

高田さん

引き続き鳥取県東伯郡琴浦町赤碕にあります株式会社赤碕オート代表取締役井木さんにお話を伺っていきます。

「SDGs 特別番組 1000 年先の未来をあなたと考える」この番組は SDGs の番組ですが掲げられている 17 のテーマの中にまさに自然環境問題やエネルギーの問題、誰もが住みやすい環境づくり、などたくさんの課題があります。

自動車業界でも最近よく聞く EV やクリーンエネルギーなどが注目されているんですけれども、現代の車の業界の流れを井木さんどう見てますか。

井木さん

はい。一般社団法人日本自動車工業会のビジョン 2035 では「日本の自動車産業は 1.5℃の気温上昇を抑える」という目標が設定されています。カーボンニュートラルに向けて多様な選択肢を提供できるマルチパスウェイという考え方は、ハイブリッド車やプラグインハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車などがたくさんありますということだけではなくて、生活消費者の要望に寄り添えるいろいろな選択肢を提供することがビジョン 2035 として方向付けられています。

高田さん

無理にそのハイブリッドに乗ろうとか EV 絶対みんな乗りましようとかじゃなくて、ちゃんと選択肢を設けてくれてるっていうような感じですかね。

井木さん

このようないろんなモビリティと言われるモノやサービスが開発されていくとメンテナンスの現場でもそれに対応できるような技術が求められています。弊社は自動車の整備工場、車検、点検もやっておりますけれども、自動車整備士さんは今モビリティ・カーボンニュートラル等自動車を使用の技術を支える将来的にも重要性がますます高まる職業です。

高田さん

私昔から「自動車整備士さんいいな」と思ってるんですけど、今よく AI とかコンピューターが全部やっちゃうような時代ですけど本当に人が乗る車をコンピューター任せにしていられないですね。やっぱりちゃんとした技術を持った方に私は見てもらいたいと思うんですけども、これからも絶対必要な職業ですね。

井木さん

自動車に乗られる方が、鳥取県は特に車社会ですのでその車を安全に乗っていただくという意味でも自動車整備士はとても大事でして、今デジタルを使ってコンピューターで車の診断を行ったりとか、今まで経験だけだったんですけれども数値上で今まで見えなかったものがコンピューターを使ってわかるようになってくるとか、そういった新しく高度な技術が求められているというような状況です。



整備士スキャンツール診断

高田さん

その新しい技術とか進化について行くのも整備さん大変じゃないですか。

井木さん

そうですね。

高田さん

現場でも日進月歩でかなりいろんなことが変わってきておりますので苦労があると思うんですけれども。

逆に言うとこれから若者が整備士になりたいと思った場合、先ほど言ったマルチパスウェイであつたりとか、カーボンニュートラルとか、ある程度そういった知識も必要になってきますかね。



井木さん

そうですね。楽しみながら、新たな仕組みというのをどういう風に使っていったらいいのかを考えることも面白いところですので、これから生まれる新しい仕組みとかそうした部分にも是非興味を持っていただけたらと思います。

高田さん

私の個人的な質問なんですけれども、最新の車はどんどん燃費が良くなっていったるじゃないですか。これからもっと進化して行くと、当然もっともっと地球環境に優しい車がこれからどんどんどんどん出てくる時代になってきますか。

井木さん

そうですね。

今やはり CO2 を使用過程では排出しておりまして、それが温暖化につながっていくという流れもありますので、この CO2 を削減して地球の温暖化を抑えていくことが大事です。自動車業界、運輸部門も含めまして、少し話がそれますがけれども、CO2 の排出が約 2 割から 3 割ぐらい日本全体で排出しているというような状況ですので、自動車業界のカーボンニュートラルを勧めていくっていう部分は、これから喫緊の課題になってくるんじゃないかなと思います。

高田さん

各自動車メーカーさんもそこはかなり努力されてるってことですよね。

井木さん

そうですね。本当に業界全体を通じてそうした部分に取り組んでいくということがこれからの方向性になると思います。

高田さん

なるほど勉強になります。そして先ほど井木さんもお話ししてくれましたけど山陰エリアまさに車社会じゃないですか。移動するときに使う車ってやっぱ切っても切れない相棒だと思うんですけども、今後の未来はどういった車の活用方法や機能が出てくると思いますか。

井木さん

はい。面白い事例としましてまず電気自動車があるんですけども、この電気自動車のバッテリーに溜めた電力をスーパーやショッピングモールとかに提供すると買い物ポイントをお渡します。というような取り組みをされておられる企業さんがあります。

高田さん

そんな取り組みをしてるところがあるんですね。

井木さん

これ自家発電を自宅でされておられれば地域でそのエネルギーを生み出して、その後に地域にその電気を供給していくというような形になるのでエネルギーの地産地消が行われていくといった事例です。

高田さん

すごくいいサイクルが生まれつつあるんですね。

井木さん

そうですね。

高田さん

他にも事例はありますか。

井木さん

はい。先進的な事例の二番なんですけれども、琴浦町の「安田地域づくり協議会」様では共助交通の取り組みをされておられますが、ボランティアではなくて有償運送許可を取得され、代金を一般ドライバーさんが地域の方からいただいて運営していく、というような新たな地域交通をチャレンジするという事例が起こっております。

高田さん

これはボランティアじゃないところもまた一ついいところで、新たな職業が生まれているような感じですね。

井木さん

そうですね。今やはりこの持続的に移動問題を解決して行くためにはボランティアだけで長くやりきれないというような声もあるで、費用もいただきながら運営する、費用も自分たちでまかないながら続けていくといったような取り組みをしておられます。

高田さん

利用者も増えているんですね。

井木さん

そうですね。バス路線等も減少しているので車を使って「ドア・ツー・ドアでいろんなところに行きたいよ」という声にうまく対応されておられると思います。

高田さん

分かりました。会社のことを多少調べさせていただきましたけれども、鳥取県輝く女性パワーアップ企業としても登録されたりとかするじゃないですか。

井木さん

はい。

高田さん

あとはさまざまなイベントも定期的には開催されていますよね。
今後 2025 年に開催予定のイベントとか、あともしお店のここを知ってもらいたいみたいな PR ポイントがあれば。

井木さん

はい。弊社は女性社員役員の比率を上げて働きがいのある職場を作ること为目标に育児介護休業に係る休業規定を鳥取県さん、社会保険労務士さんからの専門的なサポートを頂きながら策定できました。現在一緒になって働いて下さる従業員さんを募集しております。地域への愛着を持っておられる方や 100 年に

一度と言われる自動車業界の変革期を楽しんで共にチャレンジしていただける方をぜひ募集しております。ご連絡お待ちしております。

高田さん

赤崎オートさんが今後目指して行く場所、ビジョンがあれば教えてもらいたいですけれども。

井木さん

はい。人と車の笑顔を作る会社というところをビジョンに掲げておりまして、私が行う仕事というのが地域の方に役に立つってところが一番なのかなと思います。その上で安全に乗っていただく、安心してクルマを使っていただく、快適にクルマを使っていただくっていう部分の下支えができるように、この技術はしっかりと磨いていきたいと思います。

高田さん

素晴らしいですね。もう時間が近づいてまいりました。最後に今ラジオを聴いている島根県・鳥取県のリスナーの皆さんに向けてメッセージをお願いします。

井木さん

はい。告知になってしまうかもしれないですけども、電動福祉車・セニアカーというものを使った小さなカーシェアリングのサービスの実証実験を今年は予定しております。免許返納後の移動を考えようということと共に協力いただける方を探しておりまして、もしご興味があれば弊社までご連絡をお願いいたします。



電動福祉車

高田さん

詳しい連絡先は赤崎オートさんのホームページに書いてあることですよ。

井木さん

ホームページをご確認いただけたらと思います。

高田さん

本日は鳥取県東伯郡琴浦町赤崎にあります、株式会社赤崎オート代表取締役井木桂太さんにお話を伺いました。今日はありがとうございました。

「SDGs 特別番組 1000 年先の未来をあなたと考える」皆さんいかがでしたでしょうか。

今日は車の話、未来のカーライフのことにも触れた回でした。丁度お車を運転中にこの番組を聴いてくれた方も多いでしょう。車業界の方は売上のためにもどんどん新しく車の買い替えを促して行くのが普通だと思っていたんですが、赤崎オートさんのように長く車に乗ってもらうことを大事に思っている企業さんがいるということを知って意外でしたし、私も自分の愛車を大事に乗っていいと思いました。

あなたや、あなたの家族が乗っているお車を大事に乗って行きましょうね。そして素晴らしいのは車に乗れなくなった人のことまでを考えていたということです。これはなかなか出来ないことだと思うんですが地域の生活を守り、助け合っていくというそんな思いが未来につながっていくんだなと私も今回お話を聞いて気づくことができました。

エフエム山陰「SDGs 特別番組 1000 年先の未来をあなたと考える」お相手はエフエム山陰高田リオンでした。

ホームページ 「赤崎オート」で検索
akasaki-auto.co.jp